

S tudents
S upport
G uidebook
2013

学生サポート
ガイドブック
教職員必携 2013



金沢大学
KANAZAWA
UNIVERSITY

FD・SDテキスト
教職員研修用

「少し様子がおかしい」と連絡が入ることもありますし、友達が何人かで保健管理センターなどに連れてくることもあります。また、関係事務員や担当教員のところへ直接連絡が入ることもあるでしょう。

このような緊急例に対しては、保健管理センターにご連絡ください(076-264-5255(本部))。時間外に問題が生じた場合は各学類・研究科での対応となりますが、緊急対応の後にも問題が継続する場合がありますので、後日でも保健管理センターにご相談ください。

一時的な保護や入院が必要となる場合には、本人の同意が必要ですが、緊急例では本人が判断できないことが多く、家族(保護義務者：通常、両親または両親のいずれかがなる)が決定します。

2. セクシュアルマイノリティの学生への対応

人間のアイデンティティの大きな柱に性的アイデンティティがありますが、学生の中にも次のようなセクシュアルマイノリティの人が約5%程度いると言われています。

- ・性的な指向が同性に向かう人(レズビアン・ゲイ)
- ・性的な指向が両性に向かう人(バイセクシュアル)
- ・生物学的(身体的)な性と自己意識の性が一致しない人(トランスジェンダー、性同一性障がい)
- ・生物学的(身体的)な性の発達が男女に判別しづらい状態にある人(インターセクシュアル・性分化疾患)、など。

マジョリティに対してのマイノリティですから、こうした性のあり方が間違っているとかおかしいということではありません。あくまでもその人の性的なアイデンティティとして尊重すべきものです。しかし、そうしたセクシュアルマイノリティの人は、自分を見つめなおす時期でもある青春期中において、大きな危機に陥ることがあります。

授業や面談などの際には、こうした学生がクラスや研究室に一人はいるという前提で、そうしたあり方も尊重して話すように配慮してください。またこうした学生は、セルフエスティーム(自己肯定感)が低くなりやすく、自殺念慮(死にたい気持ち)をもっている場合も多くあります。したがって、こうした学生が相談に来た場合は、「セクシュアルマイノリティというあり方も人間のひとつの個性だとして尊重し、とにかくありのままその学生を受け入れる」ということが大切です(異性愛もひとつの個性です)。そして、悩みが深いような場合やご自分にはちょっと対応しきれないと思った場合は、その学生を保健管理センターにつないであげてください。また、保健管理センターにつないだ後も、支持的に寄り添うようなサポートを心がけてください。

- ・「教職員のためのセクシュアル・マイノリティ サポートブック」2010.
<http://www.imj.ne.jp/narakyouso/book.html>
- ・「子どもと親と教員のためのLGBT入門ガイド」2009.
https://docs.google.com/viewer?a=v&pid=explorer&chrome=true&srcid=0B-7K8AO_6emjMTFiZWU1MTEtZjFhOS00Zjg0LWExYzctZTNjMGFkZWYxOTBl&hl=en
- ・「LGBT学生生活ガイド in ICU：トランスジェンダー / GID 編」2012.
http://web.icu.ac.jp/cgs/2012/05/120522lgbtguide_tstg.html
- ・「よりそいホットライン」
<http://279338.jp/yorisoi/index.html>

3. 学生への一般的な対応

(1) 相談を受ける時の留意点

大学の教職員であれば、何かの折に学生から相談を持ちかけられることがあるかと思えます。特に、学生相談体制のもとでは、学生相談教員、学生相談窓口担当者、アドバイザー教員等の役割を担っている場合にはなおさらです。『指導教員の先生から「大丈夫だよ」と言ってくださった一言に救われました』、『事務の方が丁寧に対応してくださってよかったです。これで動けそうです』といった言葉をカウンセリングの場でよく耳にします。さりげない一言が、学生を育て、励まし、力になることがあります。

学生の吹きコラム②

信頼

母が病気になり、研究できる時間が極端に減ってしまった時期がありました。そのとき先生に言われた「家族を最優先に考えなさい」という言葉は一生忘れません。あの一言に救われました。本当に感謝しています。

① 学生が不安であることを忘れない

他人との出会いは時として不安を生じさせます。また、相談を受けることに慣れていない場合には、不安が喚起されやすくなります。しかし、教職員は学生に対して優位な立場にあります。教職員が不安を感じる以上に、教職員を前にした学生の方が不安を感じていることを心に留めておいてください。不安は人から人へと伝染します。こちらの不安も相手に伝わるし、学生の不安もこちらに伝わってきます。学生と関わる時には、まず気持ちをリラックスさせ、ゆっくりとしたペースで、話を聴いてください。

〈編集委員〉

[委員長]	学生生活部会長	志村	恵
	保健管理センター	足立	由美
	大学教育開発・支援センター	青野	透
	国際機構留学生センター	八重澤	美知子
	学生部学生支援課	田邊	喜章
	学生クルー	柳澤	朱音
	学生クルー	水上	理栄
	なんでも相談室学生相談員	山田	慎太郎
	なんでも相談室学生相談員	村上	栞

お願い：

学生支援に役立たせることを目的とする本冊子を、より利用し易いものにするため、教職員の皆様のご意見をメール等で学生部までお寄せください。有益と思われるご意見は、大学のホームページ上で『教職員必携 学生サポートガイドブック 2013年度版 補遺』として掲示させていただくほか、改訂時に反映させていただきます。ご協力をお願いします。

**教職員必携
学生サポートガイドブック**

平成25年4月

編集・発行：金沢大学教育企画会議学生生活部会

事務局：金沢大学学生部

〒920-1192 金沢市角間町

電話：076-264-5168

FAX：076-234-4057

Eメール：soudan@adm.kanazawa-u.ac.jp